



11 番  
吾郷孝枝議員  
(日本共産党)

## 水道事業の民営化について

① 新年度より上水道と簡易水道が包括民間委託となり、水道施設の保守・管理業務など水道水を供給するためのすべての業務が民間会社に委託されます。いま国が進めようとしている民営化と下呂市の包括民間委託の違いは。

### ◆生活部長

国が進める民営化は、運営自体が民間企業に移り、水道料金も民間の手に委ねられます。市が民間委託するのは、料金徴集やインフラ整備の更新などです。運営権は従来どおり下呂市が保持し発注主体となります。

② 安心安全な水の供給を継続していくうえで専門職員の育成・確保と技術の継承は重要です。市の責任について伺います。

### ◆生活部長

専門職の確保と若手の育成に努めます。

## 住民健診の充実と負担軽減を

① 特定健診の自己負担1000円を500円に軽減し、住民健診をもっと受けやすくできないか。

### ◆総務部長

市では自己負担額を据え置き、健診項目の充実を図っています。また、若年層と節目の年齢の方の自己負担を無料にして、より特定健診に関心を持っていただけるようにしています。

② 骨粗しょう症の早期発見のために骨密度検査を健診に加えては。

### ◆総務部長

骨粗しょう症の予防には、日ごとの運動と栄養を考えた食生活が必要であることを中心に、周知を行っていきます。

① 人手不足による影響は深刻です。介護労働者の処遇改善と、特に夜勤体制の改善などに支援が必要です。

### ◆市長

国の処遇改善策を参考にしながら検討します。

② 家庭で介護を担う人への支援として、慰労金制度を市独自の福祉施策として設けてはどうか。

### ◆市長

慰労金制度を創設することは、考えていません。しかし、介護保険基金の活用と生活支援サービスの充実について、平成31年度に検討を進め、平成32年度からの実施を目指します。

## 医療環境、診療所の今後の課題について

① 休診した中原・上原診療所の再開への取組みを問う。

### ◆健康福祉部長

市は医師をはじめ医療スタッフを直接雇用して、医療機器も購入する費用を新年度予算に計上しています。すぐに診療できる状況ではありませんが、早期再開に向けて取り組んでいきます。

② 市内の「かかりつけ医」である開業医が10年後には半減するのではとの懸念がある。見通しについて問う。

### ◆健康福祉部長

市民が安心して医療が受けられる体制確保のため、医師会をはじめ関係者と連携を図りながら取り組んでいきます。10年後には個人医院や診療所の47%ほどの医師が75歳以上となり、今後の地域医療体制をどうやって確保するかが大きな課題となっています。

③ 県下で一人当たり医療給付費が高い下呂市、対応策を問う。



13 番  
中島達也議員

### ◆総務部長

下呂市に多い疾病の原因である高血圧や、腎臓に関する数値は年々改善が見られています。これは、下呂市医師会の先生方をはじめ各関係者が全体的に取り組んでいる「減塩対策」の効果が表れてきているものと考えていますので、引き続き「減塩」を推進します。

① 財政31年問題の取り組みについて来るべき時を迎えた31年度問題、新年度予算への配慮と今後の財政運営の視点を問う。

### ◆総務部長

新年度予算については、昨年度に続き一般財源に着目するとともに総合計画実施計画を基礎とした財政シミュレーションを作成し、健全な財政運営のために身の丈に合った予算としています。

② 旧下呂温泉病院・旧下呂館跡地の利用について

### ◆副市長

下呂温泉中心部、市の遊休地の再生計画を問う。

平成31年度は、旧下呂館跡地を活用した(仮)観光交流センターの実設計を予定しています。旧下呂温泉病院跡地の活用計画については、当初の構想のまま進んでいない状況です。



7 番  
宮川茂治 議員  
(日本共産党)

**上原地域に建設予定の一般廃棄物  
新最終処分場下流の大淵・三原地  
域住民に対する説明について**

出前講座を行ったということ  
参加した人の話を聞いたところ、  
参加者が少なく、納得のいく内容  
ではなかったということ聞いて  
いる。どのような講座であり、参  
加者の反応はどのようなであっ  
たか、具体的に説明していただ  
きたい。

◆環境部長

最終処分場の構造的なこと、灰  
などの処分方法や飛散防止対策、  
雨水を含む処分場から流出する水  
の処理方法、水処理施設から河川  
に放流されるまでの行程や、河川  
に放流される排水とその基準な  
どについて説明しました。出前講  
座に参加された方には、ある程度  
理解いただいたと思っています。  
また、廃棄物埋め立て後の適正な  
飛散防止対策である覆土管理につ  
いて、貴重なご意見をいただくこ  
とができました。

**ひめしやがの湯などの民営化後の  
市民に対する入浴料補助について**

①ひめしやがの湯など民営化して

業者に譲ったとしても、来客の数が  
増加する見込みは、よほどの変化  
がなければ、無いと考えられる。  
そこで、譲渡した行政として営業  
がうまくやっていけるように援助  
してはどうか。例えば下呂市民は  
半額で入浴できる年間パスポート  
を作成するなどといった配慮を行  
うべきではないか。

◆副市長

市として、パスポートの半額助  
成などの支援は考えておらず、民  
間企業の経営努力に任せるべきと  
考えます。

②現状のままでは、経営が大変難  
しいことは、これまでの状況から  
みてもわかる。施設存続のため来  
客を増やす補助が必要ではない  
か。

◆副市長

公平性を考えると、特定の民間  
施設への補助はできず、財政面か  
ら全ての温泉施設への補助は不可  
能と言えます。PRや省エネ事業  
の情報提供、補助金申請の支援な  
ど側面的な援助ができればと考え  
ています。



13 番  
中野憲太郎 議員

**しみずの湯を健康づくりの拠点に**

高齢化が進む今こそ、健康や保  
養をキーワードにした取り組みが  
必要なきだと思いが、市長の考  
えは。

◆市長

飛騨川温泉しみずの湯は、温泉  
を利用した健康づくり発信施設と  
して、オープン以来、市民の健康増  
進、高齢者や世代間の交流の場と  
して活用されています。また、健康  
で長生きのできる健やかなまちづ  
くりに寄与する施設として、温水  
プールを利用した水中運動教室を  
開催して市民の皆さまに健康づく  
りを提供いただいています。この  
施設が市民の健康づくりに利用さ  
れていることは十分認識していま  
すが、公の施設の見直し方針では、  
譲渡民営化としており、民間の力  
で施設を継続していただくことが  
最善と考えています。

**これからの教育の課題とあり方を  
教育長に聞く**

在任中に旧町村の枠を超えた中  
学校の統合を円滑に進められた教  
育長。今後、教育において何が必要

なのか。退任にあたり教育長の思  
いは。

◆教育長

平成26年4月に教育長に就任し  
て7日目。馬瀬中学校の入学式の  
後、馬瀬小・中のPTA会長から馬  
瀬の学校の将来について、一緒に  
考えてほしいと頼まれました。保  
護者の皆さまが、それから丹念に  
誠実にたくさん時間をかけて統  
合に向けて協議され、今があると  
思っています。学校規模の検討を  
する際には、こうした向かい方が  
大切であると考えています。

また、子どもを育てていくなか  
で、子どもは間違いを経験しなが  
ら成長していくものであることを  
いつも心に留めておくことが大切  
であり、子どもが自らの力で立ち  
上がり、前進できるように子ども  
の心に火を点ける大人でありたい  
と考えます。

